

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地域の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として気象庁が委嘱した方です。

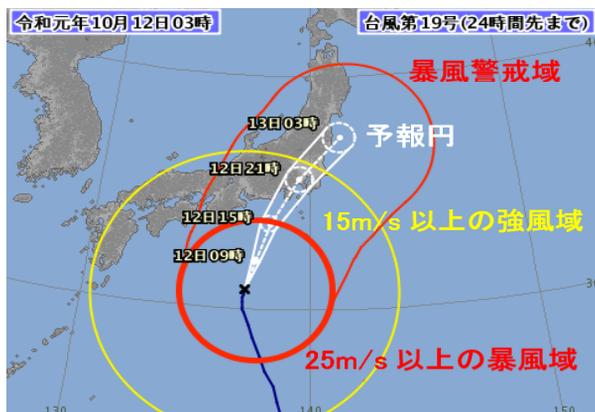


Yoshiaki Yano

台風 なめたらアカン

台風が接近して来る季節になっています。台風が関東甲信地方に接近する個数の平年値は、8月が0.8個、9月が1.2個です。あと“2個は来る”として、準備と対策を進めていきたいものです。

台風は、中心付近の最大風速が17m/s以上のものを指し、これ以下のものは“熱帯低気圧”と呼んでいます。台風の勢力を示す目安として、風速（10分間平均）を基に、下の表のようにその「大きさ」と「強さ」の階級が設けられています。「大きさ」は強風域（風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲）の半径で分けられ、「強さ」は中心付近の最大風速で分けられています。



ここで、2つの表をご覧ください、何かお気づきの点はないでしょうか？

ややご年配の方だと、「昔は、“中型の台風”とか“なみの強さの台風”とか、“弱い台風”もあったよなあ～」とおっしゃるかもしれません。

そうなのです。気象庁は2000年以降、「大きさ」と「強さ」の階級から“中型(なみの大きさ)”や“なみの強さ”以下の階級をなくしました。これらに該当する台風は大きさ・強さの形容詞を付けず、単に「台風」と表現しています。

では、なぜなくしたのでしょうか？

大きさの階級

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

強さの階級

階級	最大風速
強い	33m/s以上～44m/s未満
非常に強い	44m/s以上～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

これは、「中型(なみの大きさ)」「小さい」「弱い」というような形容詞を使うと、台風を甘く見る人がいて、油断してしまうからです。たとえ小さく弱い台風であっても、状況によっては強風や大雨などで人命を含む被害をもたらすことがあります。根拠のない安心感を与え、防災上の誤解を与えることのないようとの観点からの見直しでした。

台風の階級について、皆様にもう一つ気づいていただきたいことがあります。台風には大雨や豪雨もつきものですが、雨に関連した階級はありません。その時々によって雨の降り方は異なり、陸地では地形の影響も受けて大きく異なるからです。台風の進路予報の把握に加え、台風に伴う雨についても、ネットで入手できる“東京都気象情報”やテレビで解説される大雨の見通しなどの把握もお願いしたいと思います。たとえ、台風の卵と呼ばれる“熱帯低気圧”であっても、周辺に前線があったり、山地があったりすると、局地的に豪雨を降らせることもあります。小さく弱そうな台風や熱帯低気圧であっても、甘くみることのないようお願いいたします。